



チャンスからチャンスを!!

「棚ぼた」とは偶然にも何か良いことが到来する、予期せぬボーナスを指している言葉である。これまで必死になって頑張ってきた東京のオリンピック誘致関係者には失礼かも知れないが、昨年の「棚ぼた」は何と言っても東京オリンピックの花形競技であるマラソンと競歩がある日突然のごとく札幌市に決まったことである。北海道では表だって大歓迎の気持ち表現していないようであるが、札幌を中心とした観光関係者にとっては「濡れ手で粟」を得た気持ちだろう。しかし、この「棚ぼた」は札幌圏だけのチャンスではない。

東京から札幌まで千歳経由で行くと2時間を要し、札幌に滞在となるとホテルが満室、宿泊費は倍増(?!)、混雑して身動きが取れない。こんな札幌に滞在して選手を応援するか、東川町などにゆっくりと滞在し、大雪山の豊かなお花畑を散策し、落差270mの羽衣の滝を見て中国唐の時代の李白の心境を体験し、七色の噴水や大雪旭岳源水に立ち寄り

写真に収め、街中で美味しい食事を楽しみ、世界の写真や家具に触れる。東川には世界に誇ることが出来る自然、空間(疎)、文化スタイルがある。東川での農村体験滞在后、電車で札幌へ応援に向かう。応援後はまた東川町へ戻って、東川文化を体験し、旭川空港から東京へ向かうコースが最も余裕のあるものではないだろうか。東川から札幌までは車で2時間である。「粟」掴み、「棚ぼた」は札幌だけで終わらせては北海道の未来は暗い。私たち北海道に住むものが地域の魅力を発信し、それぞれの地域の素晴らしさを世界の人々と共有する姿勢が大切であり、今こそ最高のチャンスと捉えて行動すべきである。

旭川空港は国際化、民営化が今年からスタートし、国内外の人々は一層活発化するだろう。オリンピック競技の札幌開催は、東川町の魅力を世界に発信する最大のチャンスである。このチャンスを最高に生かすことが出来る年にしたいものである。

ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー (一般書)

ブレイディみかこ / 著 新潮社 / 刊



優等生の「ぼく」が通い始めたのは、人種も貧富もごちゃまぜのイカした「元・底辺中学校」。人種差別丸出しの美少年、ジェンダーに悩むサッカー小僧。時には貧富の差でギスギスしたり、アイデンティティに悩んだり…。何が正しいのか。正しければ何でもいいのか。生きていくうえで本当に大切なことは何か。第2回ノンフィクション本大賞作。

女優、母、そして樹木希林 (DVD)

販売元: NHKエンタープライズ



文学座の研究生として芸能界の第一歩を踏み出してから、唯一無二の存在感を醸し出した日本を代表する女優の一面。またロックシンガーの内田裕也さんとの奇妙な夫婦生活や一人娘を持つ母の一面。そして他の誰でもない“樹木希林として”歩んだ75年の人生。NHKなどに残された秘蔵映像を通じて、常識という枠に収まりきらないその生涯を振り返る。(71分)

貸し出し図書 ビデオ紹介



せんとぴゅあII ほんの森

【貸し出し】
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)
DVDは一人2本まで(8日間)
★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

ほんのなかのほんのなかのほん (児童書)

ジュリアン・パール / 文 シモン・パイ / 絵 くもん出版 / 刊



主人公のトムくんが楽しみにしていた海水浴なのに、パパとママは遊んでくれない。「ちょっと冒険」と一人でおさんぽ。夕方になり帰り道がわからなくなってしまったトムくんの足元に、誰かが忘れていった本が一冊。トムくんがその本をひらいてみると…。本のなかに実際に2冊の本が綴じこまれた絵本。言葉は同じで、違う場所での物語が展開します。